

# 第6回 輪島市復興まちづくり計画検討委員会

## 議 事 録

日 時：令和6年11月22日(金)14時00分～15時05分

場 所：輪島消防署 2階大会議室

出席者：別紙名簿の通り

### ■議事概要

#### 1. 開会

#### 2. 挨拶

(山本 利治 企画振興部長)

本日はお忙しいところ検討委員会にご出席いただき感謝申し上げます。また、日頃より輪島市行政にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

9月21日に発生した豪雨から2ヶ月が経過し、まちは少しずつきれいになってきているが、市民の中には泥出しができていない住宅もあり、多くのボランティアの協力を県と連携しながら引き続きお願いしたい。公費解体も進んでおり、五島ビルの解体もだいぶ進んでいる。来年3月までかかるようだが段々進んでいると感じている。

豪雨災害の被害にあった方の応急仮設住宅も建設中である。また、年内には国道249号が通行できるようになり復興が大きく前進する。そのような中で2回目の住民懇談会を開催し、先日には輪島市経済団体協議会とも復興まちづくりについて意見交換会を実施しており、その意見も計画に反映している。

皆様より忌憚のないご意見を頂きたいと思いますので、よろしく申し上げます。

(報道退室)

#### 3. 会議

##### (1) 住民懇談会の開催状況について

※事務局より概要を説明

##### (2) 「輪島市復興まちづくり計画検討委員会設置要綱」の変更について

※事務局より概要を説明

山下委員) 変更点には関係しないが、会議冒頭に「委員の過半数を超えたので会議が成立する」という話があったが、そのことに関する規定が抜けているのではないかと。

事務局) 漏れているので追記し、改正したい。

川口委員) 進捗管理に関して、検証方法や指標についてはこれからこの検討委員会で定めるという事で間違いないか。

事務局) 手法については事務局から提案し、承認していただければその通りに進めたいと考えている。また、各種団体代表の委員については団体の組織改編などに合わせてその時点の役職の方に出ていただくか、または現在のメンバーがそのまま代表として委員会に参加いただくことになる。姥浦委員長及び各公募委員については団体ではなく個人でお願いしているので、今後も継続して委員会に関わっていただきたい。

姥浦委員長) この設置要綱自体は市のものであるが、本委員会で承認を取った上で要綱改正をするため、決を採りたいと思う。賛成いただける方の挙手をお願いしたい。

※全員挙手により承認

### (3) 復興まちづくり計画の検討について

※事務局より説明

姥浦委員長) 修正箇所についてご意見をいただきたい。

山下委員) p.34、2-1-8の震災遺構とは具体的に何を指すのか。保存するものの候補や予定があるのか。

事務局) 震災遺構については決まったものはないが、隆起した海岸線や朝市通りで残った泰山木などを候補にしながら保存に取り組んでいきたい。

山下委員) 震災遺構を残すべき、残さないほうが良いなど両面の意見があるが、東北など他の災害ではどのような状況だったか。ギクシャクしたこと等あれば教えてほしい。

姥浦委員長) 震災遺構とは、震災があったこと、それにどう対応したのかを伝えることが基本となるかと思う。ご指摘の通り、ギクシャクしたところが全くないわけではない。特に人が亡くなっていることに密接に関係している遺構に関しては議論になっている。また長期間の保存となると費用対効果の面でも議論がある。そのため、今の時点で震災遺構を決めるというやり方もあれば、一旦10年ぐらい年月を置き、冷静になってから考えるという事例もある。いずれにせよ、これからどういう基準で、どういうものが残していく価値があるのか、または残さないのかなどについて考えていく必要があると考える。

藤井委員) 前回の委員会で人材の確保に併せて省力化・省人化について意見したが、それについてはp.41の最後に加えられた一文の中に含まれると考えて良いか。また、細かい点

であるが、右下の実施主体の表中に「市民・事業者」が見切れている箇所があり注意してほしい。

事務局) 含まれているという考え方で良い。見切れについては修正する。

川口委員) 今回、總持寺祖院が重要文化財指定されたことについては反映されているが、従来輪島市が「漆の里」「禅の里」「平家の里」を打ち出していた中、時国家に関する扱いについての記載はあるのか。市としては特に対応していく意向はないのか。

事務局) 平家については表記していない。時国家、上時国家は被災している状況であり、復旧・復興の方針が決められていない状況であり、個々の文化財については本計画においては掲載していない。

また、平家の里については輪島市として取り組んできている一方で、時国家、上時国家がいずれも個人所有であり、今後の方針が不明な状況のため、現時点では掲載していない。

姥浦委員長) 大きな指摘や修正はなかったが、本計画の承認は次回で良いか。

事務局) 次回が最終承認になる。今後、字句の修正なども含めて体裁を揃え、次回の委員会で承認いただきたい。

久保委員) 「地域資源を活かす」という観点で、「漆の里」として市では原材料の確保についてはどのように考えているのか。昔は地域に漆の木があって漆掻きをしていた。今般の豪雨によって山が崩れて漆どころではないかと思うが、山は地震によって崩れただけではなく、もともと管理が行き届かず荒れていることも要因の一つだと思う。休耕田が増えて水力がなくなっているという状況もある。昔は小さな川は集落で手入れをするということもしていた。お金にならないことはやらないという状況になり、小さな川が氾濫している。大きな川は対策が立てられるが、小河川はそうではない。山間部から集落が外に移転した場合、更に山が荒れる可能性がある。産業としての儲けにはならないが、昔の田園風景に目を向けたまちづくりが重要だと思う。山と川と海は全部つながっている。初回の検討委員会で、私からは、地震だけでなく河川災害も懸念しているという発言もさせていただいた。山林をきちんと手入れし、清流を活かせば観光資源、地域資源を育てることにもなる。山林の集落から出た住民が山に戻れるように、30年後になったとしても漆を地元で取れるように、また、技術者を育てるということも計画に反映してほしい。

事務局) 山づくりに関しては今回の災害の重要な原因のひとつであったと考えている。2回目の三井地区の住民懇談会で、1ターンしてきた方が、山を大切にすべきとの意見を出していた。ご指摘のように、現状ではお金にならないということで山が弱ってきて、境界すらわからなくなっている山林もある。個人で管理するのは限界なので、森林組合を通じて山林を集約し、専門の方に管理してもらおう取り組みをしている。山を

管理することで農地も川も海もきれいになり、魚も育ち、おいしいお米ができる。計画の中にも文言を追加し、山づくりを市としても引き続き進めていきたい。漆の木についても、漆の里ということで、輪島市では昭和40年代から山に漆の木を植えたり、休耕田の畦に植えたりといった取り組みをしてきている。山を育てたいという人の中には漆の木も含めて育てたいという人もいるので、一緒に取り組んでいきたい。伝統文化である漆掻きの技術継承も重要であるため、山づくりと合わせて進めていきたい。

姥浦委員長) p.35 がそのあたりの表現になると思うので修正して書き加えてほしい。

川口委員) 今後、この計画を市民へ提示することを、広報やLINEなどで準備されていると思うが、それだけでは足りないと思う。目標に向かってみんなでやっていくことが計画を立てることと同じくらい重要だと思うので、市民にどれだけ浸透させられるか、現段階での考えを聞きたい。

事務局) 基本的に輪島市総合計画と同様に1世帯に1冊、製本したものを配布することを考えている。

川口委員) それではちょっと堅い。市役所に復興時計を置くような、もっとキャッチーな取組ができれば。

事務局) そういった取組も今後考えていきたい。

姥浦委員長) 非常に重要な内容だと思うので、具体的な提案をお願いしたい。

山下委員) できあがった計画をどう周知していくか、ということをもう一步先へ考えると、計画を策定した次は実行のフェーズになるが、行政サイドとして実行過程をどう進めて行くのか。例えば、復興計画を円滑に進める指揮者、リーダーなど調整役を置いていくのか。というのは、個人的に関わっている話だが、漆器商工課担当で仮設商店街をつくる話がある中で、仮設住宅の一角での計画を進めている一方、仮設住宅での孤立を防ぐという観点から福祉課が福祉施設をつくらうとしている。風呂・軽い運動施設・飲食などの複合施設の話があり、そうすると目と鼻の先の仮設商店街の中の、被災して地域住民のために立ち上がった飲食店の人からすると、行政が飲食店を誘致したという見方も出来る。一義的には福祉・商店振興のそれぞれで復興として進めるべき良い話なのだが、お互いにお互いの施策を知らなかったという話がありうる。そうした調整が機能しなかったために起こるバッティングにどう対応していくのか。専門部署のようなものができるのかなど、現時点の想定でも良いので教えてほしい。

事務局) 状況は承知しているが、新たに復興事業において調整の課ができることはない。事業の進捗は復興推進課で管理をし、全体の横の連携を今まで以上に強化しながら市役所として調整していきたい。

山下委員) 今まで通り密に連携していくということか。復興が進むにつれて、今話したようなことはどんどん起こりうると思うので、連携を進めていただきたい。

森 委員) 住民懇談会でも感じたが、市民としては見通しが欲しい。進捗状況がインターネットなどで見られるようにするなど、見通しをもって計画を一緒に進める感が出せると良い。LINE でもいいので工夫されたらどうか。

事務局) 見通しを示すということは非常に重要であると思う。今後、検討委員会で検証していく中で評価指標などを示しながら、年度ごとに委員の確認を受けながら進捗状況を公開していきたい。

姥浦委員長) 今回の意見を踏まえた修正版の資料は事前に送付いただいて、確認いただけるように進めてほしい。

#### 4. 閉会

【会議の様子】



- 以上 -